



【君は神に愛され祝福されるため生まれた人】

説教者: 鄭南哲牧師

聖書の箇所: 歴代誌第一4章9節—10節(旧約聖書)/暗唱聖句: 歴代誌第一4章10節

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！本日の礼拝は「今年の子供祝福礼拝」として捧げています。今日も礼拝中に臨在される聖霊の神様が、みなさんと特に、子供たちの上に、特に我々のクリスチャンプレイズチャーチに通っている子供たちの上に、豊かな祝福と信仰と知恵を与えて下さるようにお祈りいたします！世の中で、尾(お)とならず、かしらとならせ、日本と世界を舞台として働き、用いられる信仰の大物とリーダーたちとさせていただきますように、主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

子供たちを祝福する主日を迎えたからではなく、今こそ、教会がもっと子供たちを歓迎し、愛の関心を持たなければなりません。子供たちがいない社会、国、教会とは未来を明るく夢見ることができません！それは現代今の社会の要求以前に、当時イエス様の時代、社会の中で一番無視され、ほったらかされていた弱者だった子供たちに対してだれより、イエスキリストは子供たちを歓迎され、子供の存在の大切さをみんなに教えてつつ、祝福して下さったことを我らは聖書を通して知ることが出来るでしょう。

マルコの福音書10章で、ある日子供たちがイエス様に近づいて来ている姿を見た弟子たちは怒りながら、子どもたちを止めました。大人同士での真剣な話し中、イエス様に近づこうとする子どもたちに対し、まるで子供たちの存在が大切な雰囲気邪魔する者として扱いをしながら、イエス様の弟子たちは子供たちを叱って近づこうとするのを断り、止めさせようとしてしました！

しかし、イエス様は**14節～16節**に「**イエスはそれを見て、憤って弟子たちに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国は、このような者たちのものです。まことにあなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」**と語り、そして、**その子供たちを抱き、子供たちの頭の上に手をおいて祝福された。」**と書かれています。

<本文>

今日は旧約聖書の中よく知られている「ヤベツという人の祈り」をもう一度、聞き、心に留めて、我らに与えられている大切な子供たちをヤベツのように祝福し、祈り求めて行きたいと願っております。

今日の本文、歴代誌第一のはじめは長たらしいかも知れませんが、1章から9章まではアダムからはじめ、数千年たってイスラエルの帰還にいたるまでのイスラエルの系図が、ざっとならんでいて、それがおよそ600人以上の人たちの名前が出ています。今日の本文4章にも、ユダの子孫たちの名前が44人の名前がずらりとならべられていますが、その中突然ヤベツという人の短い話がのっと表されいます。

聖書でも一番読みづらい本、そしてその中でも一番読みにくい系図の中に隠されているような人物に今日出会うことができます。イスラエルの系図を記録されている中“ちょっと待って。!どんなにこの系図を記録するの大切であってもヤベツという人についてはかならず知っておいてほしい。なぜなら彼はほかの人たちとは違ったからである。”と聖書は強調しつつ、言っているようです。

たしかに事実、イスラエルの系図においてヤベツを通して私たちに教えようとしている何かかならずあるということです。今日私と皆さんはヤベツについてのこの短い箇所を通してわずかに見えるようなことによってどんなに尊ばれる祝福の結果をもたらすことができるがわかることとなります。

今日の本文**9節～10節**をもう一度、ご覧ください。「**9ヤベツは彼の兄弟たちの中で最も重んじられた。彼の母は、「私が痛みの中にこの子を産んだから」と言って、彼にヤベツという名をつけた。10ヤベツはイスラエルの神に呼び求めて言った。「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私とともにあってわざわざいから遠ざけ、私が痛み(苦しみ)を覚えることのないようにしてください。」** **神は彼の願ったことをかなえられた。」**

<1. 苦しみと悲しみの人生ヤベツ>

ヤベツ、彼には何人兄弟たちいたのかは分かりませんが、兄弟の中だれよりも「最も重んじられた」ことがわかります。ここで、「9ヤベツは彼の兄弟たちの中で最も重んじられた。」この、「重んじられた」という言葉は、ヘブル語「カバード」で、正反対の二つの意味があり、①重い、重荷となる、重荷を負っている ②尊い、尊ばれる意味がありますが、ここで、文脈で見れば、ここでは、①番の意味であることがわかります。ヤベツがどんな兄弟より尊ばれたなら、次に痛み、苦しみの中に産んだのではなく、喜んで、感謝で、祝福の中で産んだと書かれたはずでしょう。

ですから、ヤベツの人生は、兄弟の中でだれよりも、尊ばれるより、最初から、苦しい重すぎる重荷を負った人であることが分かります。

その理由について詳しくは書かれてないですが、ヤベツの母は「私が痛み(悲しみ・苦しみを呼び寄せる)のうちにこの子を産んだから。」と言って、彼に「ヤベツ」という名をつけたことがわかります。

本文に戻って9節をどなたか読んでくださいますか。「彼の母は、「私が悲しみ痛み(悲しみ・苦しみ)のうちにこの子を産んだから。」みなさん! ヤベツの人生は事実生まれる時に大きな痛みや苦しみと悲しみを呼び寄せた人生の始まりであったことがわかります。

どうして、ヤベツのお母さんは一自分の息子を“彼は嫌味、苦しみ、悲しみを呼び寄せる。”と言う意味の名前「ヤベツ」に名付けたのかどうしても理解できないし、正確には分かりません。普段、親は自身の子どもたちに一番美しく、良い意味の名前を名付けるのが当然でしょう。

ある聖書学者は、ヤベツが生まれたちょうどその時に、彼は父親がなくなったかも知れないとか、ヤベツが障書を持っておられたのではないかと、あるいは家庭がヤベツを育てないほど生まれる当時とても経済的貧しかったかのではないのか、ある学者は、もしかすると、母親が悪者に強姦(ごうかん)のような犯罪に巻き込まれ、願わなかった命を妊娠してしまい、仕方なく生んだからではないかとも指摘する人もいますが、とにかく、確実なのは、ヤベツが生まれたことが、家族や回りの人々にあんまり歓迎されず、喜んでくれなかった、ヤベツが生まれたのが家族たちに苦しいことだったことが分かります。かえって、生まれなかった方がよかったと思うほどであるならば、ヤベツは生まれた時から、もう親や家族から祝福されないまま育ったのであるならば、人にとってこれ以上ふかい傷と不幸があるでしょうか。

聖書ではこのヤベツの家庭のことや背景も、彼に対する詳しい説明もないので、それ以上分かりませんが、普通常識的に、自分の産んだ子どもに対して「ヤベツ」という名前から、一番愛されるべき、親や家族から愛されなかった不幸な人生だったのに間違いないでしょう。

家族だけではなく、周りからもそんなヤベツの名前だけでも、痛みや苦しみを呼び起こし、悲しみを呼び寄せるやつだから、他の家族や町の子どもたちからも、一緒に遊ぶなよ、近くに行っちゃためだよ!不幸が、悲しいことがヤベツからあなたにも移ってしまうからかも、だからあのヤベツとは一緒にならない方がいいかもよ!と周りの人々にいくらいじめられ、無視されてきたのでしょうか。彼は孤独だったと十分思われます。

ヤベツにとって生まれる時から、誰にも祝福されず、愛されなかったことは、どんなに耐え難く、寂しいしんどい心の傷だったのでしょか。忘れようとしてもいつも自分の名前が呼ばれるたびに、今までの苦しみとつらい傷がよみがえられたのではないでしょか。

もし、みなさんはヤベツのような状況や人生だったら、どうしたと思いますか。

例え)私は個人的に SNS をまったくやってませんが、以前みなさんに紹介したように、SNS 上で若者の中で「親ガチャ」という言葉が流行している内容を興味深く見たことがあります。みなさんはこの「親ガチャ」ってどういう言葉の意味は何なのかご存じでしょうか。「親ガチャ」とは、若者の中で、自分で親を選べないという境遇に生れるか運任せという不満の表現の意味で、何が出るかわからないカプセル式おもちゃに例えた言葉です。生まれた時から親は選べない親と仲が悪く、親に嫌なことされると簡単に「親ガチャの失敗」って SNS 上で書いちゃう言葉でした。もちろん、社会的な格差や不公平さのための不満のあとと思いますが、自身の劣等感を親のせいにながら、諦めようととても残念なことだと私は思っております。

このように自分自身“私はどうしてこんなパパを、こんなママから生まれたのか。”自分自身の背景、外見や不器用(ぶきょう)に対する劣等感を、今日子どもたちの中では自身の親と家族に対する劣等感に拡大(かくだい)している場合が多くあります。自身の劣等感を、このような家庭に対する、親に対する劣等感、敗北意識、何のチャレンジをしようともしないで諦めようとする意識までつなげさせ、いろんな劣等感に捕らえられて家族同士(どうし)でお互いに傷つけ合い、共に苦しんでいる家庭が実はどれほど多いのか分かりません。結局、さらに大げさに今日家庭を超えて、周り人々や関係のない社会の人々にまで、そのせいにしながら人や社会を恨み、被害を与え、最終的には大切な自身の人生をも諦めようとする事件が相(あい)次いでいるのではありませんか。

ヤベツの状況なら、自分の人生をいくらでも悲観し、否定し、親や家族、町の人々を絶えず恨みながら、人生を無気力で、諦めながら生きることに十分なれる環境だったのではないのでしょうか。

ところが、このような人生の耐え難い重荷を負って、苦しみと傷だらけの人が、兄弟の中でだれより、尊ばれ、神様の大きい祝福される人生になります！とても無理な話じゃないでしょうか。決して痛みや苦しみの呪いから、解放されなさそうだったヤベツの人生でしたが、神様はそんなヤベツを他の兄弟たちより尊ばれる人生に祝福し、変えさせ下さったのです。神様はどんな人の人生より、彼を祝福し、満たされた人生に作り変えて下さいました。

10節「神は彼の願ったことをかなえられた。」によると、神様は彼の願ったとおりにすべてを成し遂げてくださる祝福を与えて下さいました！どうやってですか。今日我々と我らの子どもたちも是非知ってほしいポイントがそれじゃないのでしょうか。どうやって！どうして、神様は傷だらけ、苦しみの中で生きて来たヤベツの人生の上にあんな神に祝福される人生に変わったのでしょうか。

<2. 神様に抛り頼み、祝福のみを切に求め続けたヤベツ>

神様は苦しみと傷だらけの人生だったヤベツを逆転させ、祝福させて人生に作り変えて下さった理由は、ヤベツが神様に絶えず呼び求め続けた信仰と祈りの人であったからです！

10節で、まず、ヤベツは「ヤベツはイスラエルの神に呼び求めて言った。」

ヤベツは神に呼び求め続ける祈りの人であったことが分かります！

自分の力でどうしようも出来ない時人生の悩み・苦しみ色々な問題に直面した時、ヤベツは、親や家族、周りの人を恨んだり、悲観的になって人生を諦めるより、彼がその時選んだ方法は、神様の助けを頂けるように祈れるチャンスと機会とさせ、神に呼び求め続ける祈りの人であったことがわかります！愛するみなさん！わすれないでください。神様をいくら信じていても、神様に呼び求めながら祈らなければ、決して、神は我らの願ったことをかなえられることを体験することができないことを！生きておられる神様を心から信じ、祈り続ければ、神様は必ず、我らの祈りに必ず、もう一度強調します！必ず答えて下さいます！

マタイの福音書 7章7-8節「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。」

いつも私が祈りについて強調している言葉があります！私たちの人生は決して自分たちの信仰と祈り以上にはなりません。信じて切にそれを求めた分だけ満たされます。祈りはその人の信仰を表し、その人の人生にその人がいったい何を目指して走っているかを表します。

世界を抱いて祈る人は世界的な人になり、日本をいだいて祈る人は日本をいだくほどの人になると信じます。

今日も生きておられる信じる者の父なる神様は、祈りを通して、祈る者たちを用いて、働かれるお方です。今もし、抱えている問題や悩み、苦しみがあるでしょうか。悩まないで、それを持って祈ってください。祈りを通して神の御手が動かされ、みなさんの問題をクリアし、解決して下さい。今日我らもヤベツのように実体験出来ますように切にお祈り申し上げます！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！みなさんのお子さんは、神様に祈っていますか。

子どもは、親の背中を見て真似をし、一番似ていく存在ではありませんか。もし、今子どもたちが祈ってないなら、親である

みなさんが祈ってないからか、子どもたちと共に祈りつつ、祈りを教えてない結果であることを認めましょう。

もう一度、教会から、子どもたち共に祈り始めましょう。是非我らの子どもたちが、人生の中、ある苦しみや悩みに直面した時に、ヤベツのように、神に呼び求め続け、苦しみを神の祝福に変える祈りの力を体験できる信仰の者たちとなるように励まし、助け、祈って行きましょう！

<3. ヤベツの祈りの内容>

それでは、ヤベツはどう、何を祈ったのでしょうか。今日の聖書の御言葉では、ヤベツの背景とか、他のことについてほとんど紹介して下さらなかったのですが、彼が神に祈った祈りの内容はちゃんと書き記していただきました！それほどこの祈りの内容が大切であり、御言葉を読む我らも、我らの子どもたちもこう祈るように、勤めて下さるためだと信じます！

「**10**ヤベツはイスラエルの神に呼び求めて言った。「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私とともにあってわざわざいから遠ざけ、私が痛み(苦しみ)を覚えることのないようにしてください。」神は彼の願ったことをかなえられた。」

①「私を大いに祝福して下さい！」

ヤベツは、イスラエルの神に呼び求めてこう祈っています。「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように！」と日本語の聖書だと[大いに祝福し]と書かれています。ヘブル語の原語を正確に翻訳すると「**祝福にさらなる祝福を**」と二度繰り返すほど強調されています。

彼は「**祝福に祝福を**」という、つまり、**絶対に、切実に、懇切に神様の祝福をいただきたいと切に求め、強調していた祈り**でした。彼の一生涯どれだけ神様からの祝福を慕い求めていたのかがよく表される祈りの表現でしょう。

彼の祈りの中で、**彼は何よりも神様の祝福と恵みを切に慕い求めています。**

神様は恵み深いお方で、慈しみ部会お方なので、どんな罪ある者であり、資格もないような者であっても、神を絶対信じ、その神の御前にヘリ下さり、神のさらなる祝福を切に求める者に必ず答え、お与え下さることを信じていたのではないのでしょうか。

ヤベツは信じ、求める民を祝福しようとしておられる神様であられるのを知って、そして信じていたのです。

みなさんも、それを信じていますか。例え、我々は**民数記6章24-26節**まではよく知っています。

『**【主】があなたを祝福し、あなたを守られますように。【主】が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。**

【主】が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

我々もここまではみんな信じているかも知れないのですが、次が**民数記6章の27節**をよく忘れてしまう場合が結構あるかも知れません。何と書かれているのでしょうか。

「**彼らが私の名でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。(新改訳第3版)**」(民数記6:27)

イエス様も“求めなさいそうすれば、与えられる”(マタイの福音書7章7節)と約束されました。ヤコブは“あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。”(ヤコブ人への手紙4章2節)と言いました。つまり、**我らがヤベツのような神のさらなる祝福を頂けないのは、神様が下さらないのではなく、我々がまず、懇切に、最優先に求めてないからだという意味なのです。**

今日から、我らも改めて、神の祝福を、さらなる祝福を心から願い求めていっしょなら、今日からそう求めて祈り始めませんか。子どもたちがそう祝福されるように祈り続け、また、子どもたち自身がみずからもそう祈り続けるように勧めましょう。我々が信じている神様は今も我々に我々より、満ち溢れるほど祝福を与えたいと望んでおられるお方です。

愛する信仰の家族のみなさん! 今の時間、主の御前で今までの自分自身の人生を振り返ってみましょう。信仰の生活において私たちはあまりにも神の恵み、祝福という言葉をよく聴きすぎてしまって、いつの間にかに、自分には自然にあるいは当たり前に神の祝福がついて来るはず、べきだと考え込んで錯覚しがちです。

ヤベツは一番初めに、しかも、懇切に神様がくださる祝福を求めて続けました！神様による祝福の人生に変わるようにと願い求め続けました。覚えてください。神様はいつくしみ深いお方ですが、昨日の分の神様の祝福を求めてなかったならば、みなさんは昨日もらうべきの神の祝福をもらえず、逃してしまったことを覚えてください。

「あなたが本当に切に祈り求めるなら、私は祝福しよう！」これはまさにヤベツを通して我々に与えてくださる神様の御約束なのです。

②「私の地境を広げてくださいますように！」

ヤベツが、なぜあんなに神の祝福を切に求めているのか、次の祈りの内容を通して分かります！神様の為私を祝福して下さるように祈り求めたことが分かります。

ヤベツの祈りにとても印象深いのは、ヤベツは神様の祝福をいただいて、また自分の地境をもっと広げて下さるようにと祈っていることです！10節に「私の地境を広げてくださいますように」ここで、「地境」という言葉は「浜辺(はまべ)、境界(きょうかい)」という言葉にも訳す事ができます。それは自分が働ける、より広い空間と機会をくださるよにという意味です。ヤベツの時代、は、当時イスラエルの国家的な状況は、指導者ヨシアのカナンの征服後十二部族に約束の地を分け与えるごろだと言われています。ヤベツは、当時土地が分配されることを見ながら、ただ目に見えている土地だけに満足されなかったようです。

いわば、ヤベツは神様をみあげながら、ただ欲張りでもっと土地が欲しくて、もっと広い土地を求めたのは決してなく、目に見えている土地だけではなく、今まだ目には見えないけど、自分が神のために、働ける、用いられる地境(機会、時)を、もっとひろげてくださるよにと求めたのです。もし、彼がただ自分のため目に見える土地と物質に執着しすぎて、このような祈りをささげたならば、神様は欲張っているヤベツの祈りには決して答えてくださらなかったと思います。

しかし彼のこの短い祈りの中にはそれ以上の意味が含まれています。つまり、「**神様、私が神様のためにもっとたくさんの働きができるよに、神のために用いられる働く機会を広げてください。**」と求めているのです。

神様の祝福を、さらなる祝福を切に祈り頂いて、ただ自己中心的で、自分の腹くらみのために祝福を求めているわけではありませんでした。神様の栄光のために、もっと神の御名を告げ知らせるために、わたしを祝福し、さらに用いて下さるよにが求めているのです。神様の導きと力によって、自分が助けになれるところ、自分のたすけを必要としているところが広がるよにと求めている内容なのです。これを言い換える、「神様のためのビジョンの祈り」だと言えるでしょう。

みなさんは、神様のために、どんな夢を、ビジョンを期待し、祈っているのでしょうか。

有名なインドの宣教師だったウイリアムケリが一生涯こう祈りました。

「**偉大な神様のために、偉大なことを成し遂げることができるよう、偉大なことを求めます！**」と祈った内容とヤベツの祈りは一緒だったでしょう。

特に子供たち、学生たちのみなさんも、このような祈りをささげてみませんか。そしてヤベツのように、神様のため、私の地境を広げてくださって大いに用いて下さるよに求めて見ませんか。この祈りをささげるとき皆さんには本当に期待してもいいほど大いに用いられると信じます。神様の栄光を現し、神様を喜ばす機会がみなさんを通して、さらに増えて、与えられるよにお祈り申し上げます。偉大なる神様は、小さな私たち弱い者を通してでも、平凡な人たちを通してでも、神様の偉大なみわざを成し遂げて行かれるお方であることを信じましょう。

みなさん! 私たちが信じている偉大な神様をとっても小さいものにさせないように気をつけましょう。ヤベツのように偉大な神様がみなさんに与えようとしてい神様の夢とビジョンを抱きましょう。神様のため我々も祝福され用いられるよに。いつかみなさんにご紹介したことがあると思いますが、今日世界1位の大学のハーバード大学はキリスト教学校から始まったことをご存じでしょうか。ハーバード大学の設立者ジョン・ハーバードという人ですが、彼はイギリスからアメリカに移住して来て、まず、「この荒野のような地に神様の真実な人たちを育つ学校を立てたい。」というビジョンをもって祈り始めたそうです。それでボストンのあるすみっこに学校を始めましたが、とてもみずぼらしいそのものでした。その時、彼が持っていたのは自分の本2百冊と700ポンド(今日11万6千円ぐらい)が全部でした。それだけではなく、ジョン・ハーバードはこのちいさい学校を立てた一年後に天に召されて行ってしまいました。そんな粗末(そまつ)な学校がこんにち世界一番トップレベルの大学になれるなんてだれが想像したのでしょうか。

しかし神様はジョン・ハーバードという一人の祈りの中の夢を用いられました。たった7百ポンド(今日11万6千円ぐらい)と本200冊からのスタートでしたが、偉大な神様には彼が抱いていたビジョンだけで十分でした！彼の夢とビジョンを通して、今日世界を動かす人材を輩出(はいしゅつ)する最高の大学を神は造ってくださったのです。聖書は私たちにこのように言われます。「**信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル11章1節)**」御言葉とおりです。今、みなさんは神様のためにはどんな夢を、ビジョンを抱き、求めているのでしょうか。

神の為に、ビジョンと夢がなければ、見えなかったものが見える形として実現され、叶えられることを見るのが一生できません！もっと、みなさんも神様のために、地境を広げて下さるように祈り始め、今、見えないけど、見えるようにビジョンを持って信じて、諦めず、やり続けて見ませんか。

③「**神の御手が私とともにあってわざわざいと苦しみから遠ざけてください。**」

ヤベツは自分の不幸な環境に負けませんでした。ヤベツは確かに先祖たちを奴隷の生活から自由にしてくださり、強い敵からも守ってくださり、豊かな祝福の地に導き入れてくださった神様について聞きながら育ったと思います。そしていつかからはその神様を信じながら、望みをいただいたでしょう。祝福と地境を広げてくださると同時に、その後の神様のために働くために力ある神の御手が自分とともにしてくださってあらゆる艱難と苦しみから守ってくださるようにとヤベツは切に祈り求めていたのです。

今のみなさんが不安に思っていることは何ですか。恐れていることは何でしょうか。ヤベツは、人の力で防ぐことができない、様々な災いや人生の様々な苦しみ、痛みが遠ざかるように、自分と関わらないように、こう祈りました。

「神様の全能なる御手がいつも共にありますように！」

今みなさんが置かれている環境や状況が厳しく、不安ですか。今まで自分に負われていた運命と苦しみをひっくり返す力が神様にあります！人には不可能なこと、限界を、神様が共におられると恐れることなく、乗り越えさせて下さると信じます！

ローマ人への手紙8章 35-39節に、どんな艱難も、苦しみも、迫害も、飢えも、裸も、危険も、剣でもキリストの愛から引き離すことはなく、私たちを愛してくださった方によって圧倒的に勝利をすることができる」と神様は記され、約束して下さっています。

これからも、みなさんご自分が、子どもたちが、思わぬ様々な事故や危険、災い、苦しみから守られるように、一生涯神の御手がいつもともにあり、遠ざけて下さって、苦しむことがないようにしてくださいと祈って行きませんか。

メッセージを終わらせたいと思います。

私はヤベツの祈りが自分中心的ではないと思います。とても神様が喜んで下さり、御心に叶った祈りだったと信じます。なぜなら**10節**を見ると、「**神はヤベツの願ったことをかなえられた**」と書かれているからです。

ヤベツは、祈りを通して、生きておられる神様の祝福を頂き逆境の人生が、大いに祝福される人生として逆転されました！我らも今いるところで、神様に日々切に神様の祝福と恵みを呼び求め続けませんか。神様のために、我らに機会と地境が広がって、いつも神様の全能なる御手が我らの上に共にあって、あらゆる災いや艱難と苦しみから守られ、遠ざかってくださるようにならね！神のご栄光のため、夢とビジョンを与えて下さって、豊かに用いられた祝福の人物となりますように、祝福を祈ります！今週、今年我らの祈りも、ヤベツの祈りのように変わり、回復され、答えられ、大いに用いられるお一人お一人と、子どもたちとなりますように主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！